

IV. 参考資料

1. 我が国における取組状況について

第4期科学技術基本計画における推進方策

4. 国際水準の研究環境及び基盤の形成

(3) 研究情報基盤の整備

【推進方策】

- 国は、大学や公的研究機関における機関リポジトリ*の構築を推進し、論文、観測、実験データ等の教育研究成果の電子化による体系的収集、保存やオープンアクセスを促進する。また、学協会が刊行する論文誌の電子化、国立国会図書館や大学図書館が保有する人文社会科学も含めた文献、資料の電子化及びオープンアクセスを推進する。

*論文等のデータを機関毎に保存・公開する電子アーカイブシステム

- 国は、デジタル情報資源のネットワーク化、データの標準化、コンテンツの所在を示す基本的な情報整備、更に情報を関連付ける機能の強化を進め、領域横断的な統合検索、構造化、知識抽出の自動化を推進する。また、研究情報全体を統合して検索、抽出することが可能な「知識インフラ」としてのシステムを構築し、展開する。
- 国は、大学や公的研究機関が、電子ジャーナルの効率的、安定的な購読が可能となるよう、有効な方策を検討することを期待する。また、国はこれらの取組を支援する。

我が国のオープンアクセスの概況

【具体的な推進方策】

○学術論文をオープンアクセスジャーナルで公表（ゴールドOA）

○学術論文の著者最終稿などをリポジトリで公表（グリーンOA）

【我が国の動向】

JSPS：科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の制度改正

JST：電子ジャーナルプラットフォーム「J-STAGE」による支援
学術情報への永続的なアクセスを保証する識別子（DOI）付与の推進
助成研究成果のオープンアクセスの推奨から義務化への移行を検討

NII：機関リポジトリの構築支援（JAIRO Cloudを含む）

文部科学省：学位規則を改正し、博士論文のインターネットの利用（原則、機関リポジトリ）による公表義務化

※文部科学省作成資料

○科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の制度改正

（制度改善の観点）

- ◇ジャーナルの発行に必要な経費の助成
- ◇国際情報発信力強化のための取組内容の評価
- ◇オープンアクセスの取組への助成

【～H24】

- 科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の「学術定期刊行物」
学協会が紙媒体により定期的に刊行するジャーナルの出版に対して助成。



【H25～】

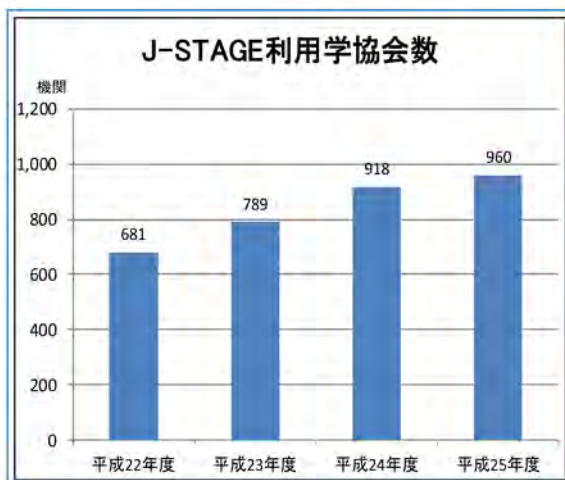
- 科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の「国際情報発信強化」
国際情報発信力の強化を行うための取り組み（査読審査、編集、出版及び電子ジャーナルでの流通等）に必要となる経費に対して助成。

※文部科学省作成資料

○J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）

科学技術振興機構（JST）が提供する学協会のための電子ジャーナルプラットフォーム

- 国内約960学会、約1,700誌の論文が掲載されており、その約87%が無料で閲覧可能。
- J-STAGEへの掲載は一部のオプションを除いて無料。



（H27.2月現在）

※文部科学省作成資料